

令和5年度 第17回 名取市総合教育会議 議事録

1 会議の年月日

令和5年6月1日（木）

2 会議の場所

仙台法務局名取出張所2階 名取市教育委員会 第4会議室

3 出席者

市長 山田 司郎

教育長 瀧澤 信雄

教育長職務代行委員 荒井 龍弥

教育委員 浅野 かおる

教育委員 洞口 ひろみ

教育委員 長澤 裕司

4 欠席者

なし

5 傍聴者

なし

6 説明のために出席した者

別紙のとおり

7 議題

(1) 校務支援システムについて

(2) 合築後の下増田公民館・下増田児童センターの利活用について

8 開会時間

午前10時30分

9 会議の概要

下山教育部次長兼教育総務課長

それでは、第17回総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の会議は、原則公開となっておりますので、ご了承願います。

それでは、ただいまから会議を開催いたします。開催にあたりまして、山田市長からご挨拶を申し上げます。

山田市長

本日は、大変お忙しいところ、第 17 回となりました総合教育会議に、瀧澤教育長をはじめ教育委員の皆様にご出席いただき、ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症も 5 類と引き下げられ、間もなく一月が経過しようとしております。市としても、活力ある社会経済活動を取り戻していくことができるよう施策を進めているところです。

本日の総合教育会議のテーマは、「校務支援システムについて」と、「合築後の下増田公民館・下増田児童センターの利活用について」といたしました。

校務支援システムについては、本年度、小・中学校各 1 校ずつに試験的に導入しております。システム導入により、教職員の負担軽減が見込まれますが、本日は実際にシステムのデモンストレーションをご覧いただき、システムについての理解を深めたいと考えております。

また、下増田公民館・児童センターの合築につきましては、この総合教育会議でも何度か取り上げておりますが、いよいよ開館するにあたり、複合施設ならではの取り組みについて議論を深めたいと思っております。

限られた時間とはなりますが、本日は、教育委員の皆様方から忌憚のないご意見を頂戴いたしまして、さらなる施策に結びつけてまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

下山次長兼教育総務課長

それでは、3 の議題に入ってまいります。ここから先は、名取市総合教育会議設置要領の第 4 条第 3 項により、市長が議長として議事を進めさせていただきます。山田市長、よろしくお願い申し上げます。

山田市長

それでは次第に沿って進めてまいります。

まず初めに、議題（1）校務支援システムについてであります。

事務局から、資料に基づいて説明をお願いします。

黒川理事兼学校教育課長

はい。それではお手元の資料 1、A3 のものをご覧いただきながら説明を聞いていただければと思います。初めに私から概要を、そのあと、今年度モデル校 2 校、増田小と増田中にシステムを導入しました NEC フィールディング株式会社の戸田様、そして鈴木楽器販売株式会社の我妻様より説明と、実機によるデモをお願いしております。

では概要について説明いたします。モデル校においては、4 月中にシステムが導入され、5 月上旬には管理職対象の研修会、一般教職員対象の研修会をそれぞれ実施し、すでにシステムが稼働しております。このシステムは、第 6 次長期総合計画に掲げられている、「質の高い学校教育を図る」ために必要であると同時に、働き方改革にも繋がるものにとらえておりま

す。名取市ではこれまで、留守番電話を導入したり、ICカードによる勤怠管理を取り入れたりしたことで、グラフのように改善が見られるところでございます。

しかしながら、昨年度 45 時間を超える超過勤務は全体の約 70%、80 時間を超えた教員は約 10%という状況になっております。

今年度より、統合型校務支援システムの導入により、教員 1 人当たり 100 時間以上の勤務時間短縮が見込め、さらなる勤務時間の短縮に繋がるものと思われまます。

業務改善のイメージを右側の図で示しております。データ入力について、入学時に入力した名簿が出席簿でも活用され、成績情報でも活用されます。

成績情報は通知表や指導要録等にも反映することにより、赤枠で囲まれた部分の校務が削減することになります。

その入力作業に加え、成績を通信表、内申書等に転記した際の照合にこれまで非常に多くの時間を費やしておりましたが、システムの導入で整合性が保障され、大きな改善に繋がることも期待されます。また一つ例を挙げますと、コロナやインフルエンザの罹患者が多い時期の出席簿、学校日誌、保健日誌、その記入、そして照合に 1 時間以上の時間を費やすことが多いと聞いておりました。各担任、記入担当者、養護教諭、教頭、校長がそれぞれ 1 時間以上かけるような、そういった校務が削減されるのではと大きな期待をしております。右下です。デモに参加した教員の感想をまとめました。このデモは昨年度、校長、教頭、教務主任、事務職員、それぞれ二名ずつ参加してもらいました。

感想として、「作業の効率化と正確性が保障される」、「公簿の多くが電子化が認められてきたため、システムの導入で負担が軽減できる」、「これまでのデジタル化はそれぞれ独立していたが、統合型で大きな改善となる」、「重複している作業が軽減され、整合性が保たれる」といった感想が寄せられております。

今年度モデル校導入の成果と課題を整理し、今後、市内のすべての学校にシステムが導入される際には、その時に備えたいと考えております。私からは以上です。

では、デモンストレーションをお願いします。

鈴木楽器販売(株)東北営業所 我妻

説明かわりまして私鈴木楽器販売の我妻の方から説明させていただきます。

お手元の資料の方で、前のディスプレイに映しているスライドの資料が一つと、参考資料としてスズキホームシリーズのご提案と書かれている資料を用意させていただきましたので、ご参照いただければと思います。

スズキ校務シリーズのご提案の資料の方ですけれども、表紙の方から開いていただきますと、各機能の校務支援ソフトのご紹介や、各機能の方が記載されております。

逆に後ろから開いていただきますと、校務支援システムの導入などの対策が求められる文科省からの通知等、細かいことが載っておりますので、こちらは時間のある時にご参考として見ていただければと思います。

前のためディスプレイの方で、パワーポイントと実際の画面の方をご覧くださいければと思います。

簡単に弊社を説明させていただきますと、校務支援ソフト、スズキ校務支援のメーカーで、学校関係、教育関係のソフト開発に30年以上関わらせていただいております。また今回小・中学校様に1校ずつ入れさせていただいております校務支援システムにつきましても、約10年近く、長い期間でやらせていただいているシステムになります。校務支援システムを導入することで見込むことのできる負担軽減は、こちらの資料にあります通り、いくつかのメリットがございますが、大きくは、校務情報化の力で先生方の校務の負担を軽減するだけではなくて、その削減された時間をもとに、児童生徒様の方に時間を当ていただき、教育の質の向上をサポートするように、ソフトの方を使っていただくように、システムを構築させていただいております。

導入する主な機能ですが、こちらはAからNまで、名簿情報からいくつかの機能の方を今回導入させていただいております。こちらの細かい機能につきましては、この後の実際の画面と、お手元のスズキ校務シリーズのご提案の方でご確認いただければと思います。また、現在市内の方で、保健の先生がお使いいただいております、「えがお」と呼ばれる保健ソフト、健康診断票や、身長体重等を記録するソフトですけれども、これらのソフトから、この統合型の校務支援ソフトの方に丸ごとデータ移行することもできますので、保健の先生は今と変わらず使い続けることができるような機能になっておりますし、児童生徒様の保健に関する大事な情報もそのまま移行することができるようになっております。

弊社の校務支援ソフトの特徴としましては、簡単な画面ですぐに操作できますよ、というのが挙げられまして、パソコンが苦手な先生であっても、研修を1時間程度受けることでおおよそ使えるようなシステムになっております。こちらの方ももちろん実際の画面で見ていただければと思います。

また、スズキ校務ソフトの一番大きな点としましては、基本的に一度入力した内容は他のところで2度3度と同じことは入力しなくても使えるようなソフトとなっております。

日々蓄積していく情報が、通知表・要録まで反映されるシステムになっております。実際の校務ソフトの画面今から見ていただければと思います。

それでは、実際の画面を今からご覧いただきたいと思います。

こちらが実際の先生方が使うときに最初に開く画面ですけれども、各学校の先生方のお名前が登録されているものが表示されます。こちら児童生徒様の大事な情報入っておりますので、先生ごとにパスワードで管理されております。

こちらが先生方日々使う操作画面になります。現在のデモ関係は中学校の場面で、管理者権限をつけた先生になっておりますので、各設定等の画面が出てきておりますが、一般の先生に関しましては、制限をつけておりませんので、設定画面は出てこないような形になっております。

画面上一番左側が年度の初めや、導入当初に入力していただく名簿の一式、画面の真ん中が出席簿や成績処理、日々の様子といった毎日、何か朝に入れていただく内容が真ん中、一番右に通知票・指導要録、中学校様ですと調査書といった形で、年度末・学期末に入力していただく項目が、左から、順に入力していただくようなイメージで作らせていただいております。

例えば名簿情報ですけれども、色々な名簿情報の登録ができて、こちらに入れていただいた内容が他の出席簿や通知票・要録・調査書の方に反映されるような内容になっております。こちらの項目等も学校ごとに編集できますので学校独自の項目入れていただくこともできるようになっております。

名簿につきましてはもちろんいろんな形で印刷等もできるようになっております。各種名簿や、中学校様の場合ですと、このような学生証等もシステム内で作成して印刷することができます。他にも、こういった賞状などを色々な形でレイアウトを利用して使うこともできますので学校に合わせた形で様々な名簿を印刷できるようなシステムになっております。

次、出席簿ですけれども、こちらが毎日の出欠席を入れていただく内容になります。項目から病欠、出席停止等を入れていただきまして、こちら保健の先生と担任の先生が共有して同じデータ見ることができますので、相互の確認を行っていただきまして、学期末・年度末には通知表や要録に読み込みして反映していただくような機能になっております。

またこちらに入れていただきました情報も集計や抽出という形で見るできるようになっております。

出席の画面を最初に開きますと、今日の日付で、欠席や、遅刻早退された方の一覧が出てきます。また他にも集計は色々な項目がありますが、例えば、今日までの間で、累計で6日間以上休んでいるのはこの子たちですよ、といった集計もボタン一つでできますので、何かしらの形で指導の方に役立てていただければ、といった機能もついております。こちらはCSVで書き出すこともできますので他の資料として使っていただくこともできるようになっております。

続いて成績処理の部分になります。こちらの定期テストの他にも、例えば読書感想文など、そういった日々の何かしらの成果物を入力して保存することもできますし、成績処理のシステム内で評価評定を算出することもできるようになっております。入れていただいた結果は試験集計といった形で、ラベルの印刷、またグラフでの公表、そういった形でいろんな形で集計、成果物として出すこともできるようになっております。

後は成績一覧表の場合ですと、例えば通知表。ちょっと見づらいのですが、通知表で、入力した成績の前の学期からの差を記号として表記することもできるようになっております。ただ黒三角であれば二つ以上上がっているよ、白三角の上であれば、1個以上上がっているよ、といった形で、記号での表記もできるようになっております。

これ一覧表も印刷していただきまして、こういった形で、前の学期からどれくらい成績が上がっているか、どれくらい下がっているか、といった帳票を印刷して確認いただいて、成績評価を色々な形で児童生徒の方に還元していただけるような機能もついております。また一覧票も各種出すことができますので、学校の状況に応じて使っていただけます。

他にも校務支援ソフト使っていただきまして、日々、徐々にデータの方が蓄積されてきますので、このソフト使っていただくからの、例えば過去のデータも確認することができます。

これは3年1組の生徒さんの、去年の出席はどのような感じだったんだろう、ということや、通知表の結果、例えば、アレルギーの情報等の情報共有したい内容や、こういった指導

をしましたよ、といった情報などを記録して、情報共有等を行うこともできるようになっております。

こちらは、日々入力していただいた内容を通知票・要録で読み込んで印刷していただく画面です。通知票につきましてはレイアウトの作成機能もついておりますので、メーカーの方でお手伝いして入れさせていただくこともできるのですが、学校ごと、学年ごとにレイアウトを作成して使っていただくこともできるようになっております。通知票もいろんなパターンで作ることができますので、学校の実情に応じたレイアウトが作れるかと思えます。指導要録等に関しましては、公簿になりますので、導入時等に委員会様とご相談させていただいた内容を入れさせていただくことになっております。調査書につきましては、毎年度県の方で発表される様式を弊社で確認させていただいた後に、毎年度更新して入れさせていただくような形になっておりますので、学校様の方では、新たに新様式を用意せずに使っていただくことができるようになっております。

ちょっとプレゼンテーションの方に戻らせていただきます。他にはコミュニケーションツールといった機能の方も入れさせていただいておまして、名取市内であれば、同じ校務支援ソフトを使って、例えばアンケートのやりとり、委員会様と学校でのアンケートのやりとりや、養護部会・校長会等のグループを作って掲示板としてやりとり、またメッセージのやりとりといったように、サーバー内で市内の情報をやりとりすることもできるようになっております。このように、外部に情報が出ない形で、メッセージ掲示板のやりとりもできるようになっております。

なおセキュリティは、他のソフトファイルを使用しない形、先ほど申しました通り、養護の権限や管理職の権限、そういった権限をつけて、パターン化させていただいておまして、そのパターンもなるべく少なくしておりますので、最小限の設定ですぐ使い始めるようなシステムになっております。無理のないセキュリティ、最低限のセキュリティで安全な体制をとっております。

またデータの集計抽出もすることができますので、例えば委員会様の方から感染症の情報、各校の行事予定を確認するような機能もついております。こういった形でいろんな集計、データの集計共有といった形で分析等もできる機能もついております。

ほかにもサポートでしたら電話サポートや営業の方で直接学校様とやりとりしていただいてサポートすることも可能ですので、そういった形で、先生方になるべく無理のない形で導入していただければ、という校務ソフトになっております。

急ぎ足になってしまいましたが、私の方から説明は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

山田市長

はい。ありがとうございます。ただいまの説明を踏まえて協議を進めて参ります。初めに今拝見させていただきましたシステムについての感想や疑問点などがありましたら、お伺いしたいと思います。これは先生方の先生出身の方の方がいいですかね。何か、いかがでしょうか。荒井委員。

荒井職務代行委員

はい。成績処理に関しては、照合するのに大変に手間がかかっていたところですので、大幅な省力化になるのかなと思って、伺っておりました。

質問は二つありまして、一つはメーカーさんの部分、セキュリティの確保体制に関して何かご説明いただければなということと、あと、もう一つ面倒だなと感じていたのは、週案です。週案に関する何か追加のご説明がありますか。

山田市長

週案とは何でしょうか。

荒井職務代行委員

週案というのは、先生が、毎週、何組に行ってこんなことを何時間やりましたよ、というものです。

瀧澤教育長

週案というのは週指導計画で、1週間のその先生の1時間毎の授業の計画を前もって書いて、作った後に、実際どうやったかっていうのを赤で直したりしているもので、小学校ですと担任が1時間目から5時間目まで、国語社会算数とか音楽というふうに書いて、何をやるか、ということメモするのですが、それがこのシステムにはあります。

荒井職務代行委員

時数をこれで計算したりとか、年間何時間やらなきゃいけないのか確認したりとかができるのでしょうか。

山田市長

なるほど。そこに時数が出るのでしょうか。

鈴木楽器販売(株)東北営業所 我妻

こちらの左の大きな画面で行った授業を登録しますと、右側の小さい画面で、各々、今どれくらいの時数を行ったっていった計算の方もすぐ出るような形にはなっております。ちょっと最初にいろんな事業計画とか入れなければいけないのですが一度入れていただければ、終わったものから登録していただければ、こういった時数の方の集計も行えるようになっております。

瀧澤教育長

年間指導計画を入れれば、こっちに反映されるって感じなのでしょうか。

鈴木楽器販売(株)東北営業所 我妻

年間指導計画や各時間割の時数、あと基本設定の方で今日打ち切りがあったとか、そういったのをに入れていただければ反映されるような形になっております。

山田市長

毎回入れていく必要はないということでしょうか。

鈴木楽器販売(株)東北営業所 我妻

基本的には年度最初に入れていただいて、あとは毎週の例えば臨時休業等の調整といった形になります。ちょっと設定は細かいのですが、時数の登録をしていただければ使えるような形になっております。

山田市長

はい。あとはセキュリティの話をお願いします。

鈴木楽器販売(株)東北営業所 我妻

次にセキュリティに関しまして、今回クラウドという形で提案をさせていただいております。入力したデータに関しましては、先生方のパソコン、ローカル上には保存されない仕組みになっております。例えば先生の方が万が一壊れてしまったなど、何かあったとしてもデータの方は、安全性は保全されておりますし、外部からも接続はできないような形で対応させていただいております。

山田市長

今の説明でよろしいですか。

荒井職務代行委員

はい。ありがとうございます。

山田市長

では長澤委員、何かありますでしょうか。

長澤教育委員

今の週案関係に付随して、結局、打ち込むのは授業者が打ち込んで、どのぐらいの授業時数を確保しているか、というのが、教務主任が年間の標準時数が超えているか超えていないかというのを管理するので、そういったものは、教務主任等も確認はできるようになっているのでしょうか。

鈴木楽器販売(株)東北営業所 我妻

そうですね。基本的には教務の先生が先ほどの設定等を入れていただいて、管理、確認管理等をしていただくような形になっております。担任の先生は実施時数や、授業の入れ替えなどの入力になります。

長澤委員

そこが大変なんです。

山田市長

そこは便利になるということですね。

長澤委員

そうですね。

山田市長

さっきのご説明だと、それを教育委員会が入っていく必要はないと思いますけど、そこまで見ることができるということですか。

鈴木楽器販売(株)東北営業所 我妻

教育委員会の方は週案の時数は見れないのですけれども、各校の行事、例えば運動会がこの日あるよ、や、この日休みだよといった行事予定は、一覧で確認することができるようになっております。

山田市長

学校の中で完結するものもあるということですね。今言った週案の時数みたいなことは学校の中で完結させると。

鈴木楽器販売(株)東北営業所 我妻

基本的には学校内で完結するものと委員会様が必要な情報はある程度確認できるという形です。

山田市長

洞口委員どうですか。

洞口教育委員

はい。セキュリティの問題なのですが、いろいろ問題があると思うのですが、例えばなのですが、学校が火事になった。それからあと、地震水害とかになってこのデータが消滅した場合、データが消滅した場合はバックアップっていうのはスムーズにできるのでしょうか。

鈴木楽器販売(株)東北営業所 我妻

はい。今回のシステム的にはクラウドといった形になっておりますので、例えば万が一そのクラウドサーバーが置かれている場所が何かしらあったとしても、いくつかのバックアップ先がございましてそちらの方で保全されておりますので。日本全体が、といった形にならない限りは、基本は大丈夫かなといった形のサーバーの管理にはなっております。

山田市長

そのデータセンターみたいなところになるんですかね、詳しくは言えないのでしょうか、東日本西日本みたいなことでちゃんと分けているということでしょうか。

鈴木楽器販売(株)東北営業所 我妻

基本的にはメインは東日本の方に置かしていただいております、そのバックアップは別の場所にも取っているようなイメージになります。

山田市長

浅野委員何かありますでしょうか。

浅野教育委員

セキュリティの問題ということではあるのですが、先生方がこれをするでもものすごく効率化が図れるのかな、ということと、画面もすごく使いやすいような、ゲーム感覚でできそうな、すぐに印刷画面にもいける、という感じで、効率化になると思うのですが、先生方がどのぐらい家に仕事を持ち帰ったりするのか、ということが私はわからないのですが、もちろん持ち帰ることはしてはいけないと思っているのですが、持ち帰りたいて言った場合は認めたりするのでしょうか。

山田市長

すべて学校内で終わらせなきゃいけないなくなっちゃいますよね。

浅野教育委員

どうしてもその個人情報にアクセスしないといけないものがあるわけですから。それを許可するのかな、と。

黒川理事兼学校教育課長

現段階でも、エクセルなどを使ったデジタルでの活用はしているんですけども、そのあたりのデータは基本持ち帰らないということで今も徹底しております。どうしてもその所見などを家で書きたいという方、あるいはテストの採点を許したいという方、そういったところは、今もあるんですけども、デジタルデータにつきましては、個人情報は紐づいて特

定されないような形、例えば名前は入れない、出席番号と所見の文案として家で作成、それを学校に持ってきて、コピーペーストする。そして、データを持ち出す場合には、USB メモリ管理簿に記入して、貸し出しと返却の決済を受ける、そういった形で対応しておるところです。システムが導入されても、そのあたりは、今と同じで、管理するような形になると思います。

浅野教育委員

お持ち帰りはなくなるのかな、っていうイメージがあるということですか。

山田市長

これ、原則不可だけでも例外もあります、という話ですよ。その際の何かそれこそセキュリティというか、自宅に持ち帰る、どういう形態でやるか私は分かりませんが、ワードなのかエクセルなのか分からないですけども、ご自宅でやる。まずその持ち帰るようにデータを落とし込みすることがもう可能になっているのですか。ハード的には。

鈴木楽器販売(株)東北営業所 我妻

ソフトのシステム的には、学校外、市外の方からはアクセスできないような形でさせていただきます。

山田市長

直接アクセスすることはできない、ということですね。

鈴木楽器販売(株)東北営業所 我妻

セキュリティの方を、パソコン入れさせておりますので、先生方の家のパソコンとかからはアクセスできないような形になっております。なので、あの先ほどの委員会様のご提案の通りエクセルなどで、お名前個人情報載せない形で記載いただいたものを学校に持ってきて、コピー貼り付けして、ちょっと手間になってしまうのですけども。

山田市長

それはできるのでしょうか。ハード的に。

NEC フィールディング(株)東日本営業本部 戸田

そちらは私の方からご説明させていただきます。まず、学校にある校務パソコンでこちらの校務支援システムにアクセスをいたします。校務支援パソコンにつきましては、先ほど課長の方からもあったんですけども、USB の管理というふうなところで USB データを落とし込むこと自体はできる形になっております。USB につきましても、指定外の USB とかは使わせないとか、そのようなところはできております。

名取市長

USBに落とし込むことができ、USBに自宅から持ち帰ってきたUSBからアップロードじゃないけど、データを戻すこともできると。

NEC フィールディング(株) 東日本営業本部 戸田

そこは先ほどの管理部の運用というところで、今実施していただいているところです。

山田市長

万が一それがウイルスに感染していた、しかも新手のウイルスたちの悪いウイルスだ、みたいな時はどうなるのですか。どこで防ぐのでしょうか。

NEC フィールディング(株) 東日本営業本部 戸田

はい。今セキュリティ対策ソフトっていうものは当然入れさせていただいております。基本的なウイルスというところはまず対処しております。未知のっていうふうなところに関しましては、今、最近のゼロトラストと呼ばれるようなセキュリティのものあるんですけども、そういったものもまだ今入れてはない状態になるのですが、次回の更新時には入れようか、という話をしております。

山田市長

過去に他市の事例で、そういうウイルスに感染してしまったという事例はあるのですか。

NEC フィールディング(株) 東日本営業本部 戸田

弊社の管理の中では今ないです。

山田市長

御社の管理の中で今言ったような、あまりメインで想定していないような使い方をされて、USBのような他の媒体で移動した結果、ウイルスに感染してしまってシステム全体にちょっとした障害が起きてしまったみたいなことはあるのでしょうか。

NEC フィールディング(株) 東日本営業本部 戸田

弊社が今やらせていただいているところではないですが、可能性はゼロではないです。

山田市長

よほどしっかりやってもらわなきゃいけないですね。校務支援システムを入れるので、今まで手づくりでやっていただいていたことと違うので、それを今までと同じような運用でやるのであれば、何かそれはちょっと違うような気がする。そこは申し上げておきたいです。そういうことも含めて、全体を見たときに改善されるから導入するっていうのであればいいですけど、何か原則駄目だけど例外あるっていうことで進めていくっていうことであれば、結

局入れた仕組みがまた何か汚染されたりして、そこで手間隙かかってみたいことになるんであればちょっとそれは違うかなという気もします。

ちょっとあと私から聞きたかったのですが、時間がこれだけ減りますっていうのは何か事例ご紹介いただいたんですけど、実際に他市でやってみてですね、超過勤務がこのぐらい減ったというデータはありますか。先生方の超過勤務、ここにあるように、令和何年度でこうだったけれども導入した結果このぐらい減りましたっていうのはあります。それが一番の決め手になると思うんですよ。時間的にはこのぐらい減るはずですよって言うても、結局いろんな業務があるので、実際減らないとかですね。

鈴木楽器販売(株)東北営業所 我妻

ここにうちのメーカーとして取らせていただいている統計としましては幾つかあるのですが、それはあくまでも各全体的な、どれくらい削減されたかといったデータは各自治体で集計をとったりはするのですが、超過勤務が減ったというのが、直接校務システムと関連してとったデータは現状どの自治体でもないような形です。

山田市長

やっぱり導入するかどうかっていうそういう具体的な成果が出てくるかどうかだと思うんですね。何時間分短縮されて先生方は何ていうか、仕事しやすくなった、働きやすい環境になった、っていうことは、それはそれでいいと思うんですけど。実際にその超過勤務みたいなところが減って、子供たちと向き合う時間も十分とれていますよ、というところが出るかどうかやっぱり本格導入するかどうかの鍵かな、という気がします。その辺のデータがあれば教えていただきたいです。

鈴木楽器販売(株)東北営業所 我妻

分かりました。

山田市長

では、教育長お願いします。

瀧澤教育長

はい。さっき持ち帰りの話題になりましたが、先生方は小学校と中学校と若干違うかもしれませんが、成績処理ですね。これに直結するような。あとは授業の準備をする教材研究、それから私がよく家でやっていたのは、学級だよりとか、お便りを作成するっていうような作業をよく家でやっていたんですね。成績処理とかなんかについては、基本は学校内でできるような形をとって、家に持ち帰らないっていうことは、個人情報を含みますので、その方がいいのかなと思います。通信票を作る、1週間とか何かを子供を早く帰して、事務整理の時間を取ったりしている学校も多いんですね。だからうまく学校内でこれを使ってやれるような体制も併せて考えていく必要があるかなというふうに思います。

それから、私が教員になった頃は、印刷はロウ原紙にガリ版と鉄筆で書いて謄写版で印刷していました。学校っていうのはいろいろ世の中が IT 化とか進行しても、10 年ぐらい遅れています。例えばコピー機なんかは、しばらく学校では使えなかったです。ファックスもなかったです。電話してファックスで送ってくださって会社から言われるのですが、「すみません FAX はありません」と言ったのも何回かあります。パソコンもそうですし、こういったシステムは普通に民間では使われていると思うので、学校に導入するっていうのは基本的には必要なんだろうなというふうなことは考えています。

ただ私、別にこれを導入するのが悪いという意味ではなくて、その時にまた先生方にお話したいなと思っていることは、無駄が省かれる、効率化される。ただ本当にそれだけでいいのか。学級担任を持つと、最初にゴム印を押して名簿を作ります。いろんな情報を自分で書き込みます。その中で子供のことを理解したりすることもあります。成績処理でも丸付けをしながらこの子何故ここが分かんなかったのかなって考えるので、無駄がない、効率化っていうのだけを求めて、下手すると子供のことが見えなくなってしまうことも懸念されます。あと、今は多分ないと思いますけれども、対話型 AI とか入ってくれば、多分これで所見とか全部作ってくれるのではないかと思うんですよね。それでは何か駄目じゃないか。本質的に子供をきちんと理解して子供と向き合う時間を確保するというような、校務支援システムの方へメリットっていうのを生かすためには、そういった先生方の、これに対する考え方とか、そこをしっかりと踏まえて使ってもらわなきゃならないと思いますので、全校に導入された暁には、そういったところを話していきたいなと思っています。

山田市長

はい。まさに望むところがそういうところだと思います。ありがとうございます。その他、何かございますか。よろしいですか。長澤委員

長澤教育委員

説明していただいた業者の方がおっしゃったように、とにかく学校で、従来同じものを複数の人間が同じ形で作ってきたんですよ。無駄だったんです。無駄が余りにも多くて、例えばエクセルファイルにしたって、A 先生も B 先生も C 先生も同じようなものを使っていたんですね。それで統一していこうということで、学校独自の努力によってですね。サーバーにエクセルのシートでこれ入力していこうとかっていうふうに変わってはきたんですが、ただオーバーランするときに間違っ、A 先生が入力したものを、B 先生がまた打ち込んだ、そういうことがざらにあったんです。ですから、こういうふうな形で、総合型の、そして共有できるソフトを導入していただければ、先生の負担というものが大きく軽減されるっていうことは間違いない。

ただ 1 点、ちょっとまた質問なんですけど、これ、ネット上の環境が必須ですよ。クラウドで使っているわけですから、そのときに、校務支援ホームの PC の中で、ネット環境に常にあるわけですよ。そこで何らかの感染とかウイルス感染とかそういったものっていうのは、危惧っていうのはないんですか。一般的に企業であれば、イントラの中に、ネット

環境を使って、そちらの方でネットと接続して、校務システムっていう中で、この校務ソフトが入っていれば一番安全じゃないかなと思うんですよ。ネット環境から出た段階で例えば Teams 使えるとかね、そういうふうな考え的なものではないんですよね。同じネット環境の中にあって、校務ソフトも一緒にその環境のもとにあるというふうなとらえでよろしいんですよね。

NEC フィールディング(株) 東日本営業本部 戸田

はい。私の方から回答させていただきます。今回のクラウドと呼んでいるものは、確かにインターネット環境が必要になります。ただ、今回のスズキ校務のクラウドっていうところに関しましては、クラウド上のサーバーっていうふうにはなっているんですけども、そのサーバー自体はインターネットと、ある意味独立しているような形になっています。それはホームパソコンから特殊な唯一の鍵っていうものだけで、接続できるような形になっていて、そのクラウドのサーバーと呼ばれる中で校務支援システムが動く仕組みになっています。でするのでこの校務支援システム側は、インターネットとかとは全く別の環境にあるというふうな形になります。直結はしているんですけども、他のインターネットというところとは全く分離してやるということですね。

山田市長

詳しくわからないからそう言われるとなるほど、とってしまうのですが、そこを、一本しか繋がってないところでも攻撃されるってことはありえないんですか。

NEC フィールディング(株) 東日本営業本部 戸田

基本的にはありえないとは言い切れないんですけども、いろんなセキュリティを随時更新させていただいて、それは対応の方はさせていただいていますし、現状ではメーカーの方ではそういった不正アクセスはないような形になっております。

山田市長

ありがとうございます。皆さんよろしいですかね。はい。校務支援システムが導入された場合どのようなことを見込まれるか等々については今ご意見いただいたと思いますので、以上で終了させていただきたいと思います。では次の議題に移りますが、ここで出席者の流出のために暫時休憩をいたします。ありがとうございました。

(説明員入れ替え)

山田市長

それでは、再開いたします。次に、(2) 合築後の下増田公民館・下増田児童センターの利活用についてを議題といたします。それでは資料に基づき事務局から説明をお願いいたします。

佐藤生涯学習課長補佐

では資料 2 に沿ってご説明のほう申し上げます。まず 1 番、施設の概要でございます。こちらは鉄筋コンクリート 2 階建て、延床面積が約 2200 平米という建物でございます。詳細は図面の通りでございますが、10 月 29 日日曜日に開館の記念式典、11 月 1 日から建物の供用開始を予定しているところでございます。では施設の概要について図面の方、こちらの方の A3 のものでご説明申し上げます。3 ページ左側が施設の配置図でございます。縦にご覧ください。

下増田小学校の西側になりますが、中央に建物、そして西側に駐車場、障害者用の駐車場 2 台を含む 55 台。南側に園庭、さらに東側に広場というものがございます。この建物の特色である広場は、下の方の図面をご覧ください。こちら広場に屋根がかかるような形でございます。幅が 25 メートル、軒を入れますと、14 メートルの奥行があるような広場でございます。上には太陽光パネルを載せております。また茶色い部分にステージがございます。ステージは幅が約 8 メートル、奥行きが約 1.8 メートルということで高さ 50 センチぐらいの、こちらにステージもつくような形となっておりますので、イベントをやることが期待されます。

続いて 4 ページをご覧ください。次のページでございます。左が 1 階平面図でございます。凡例にございますように、黄色い部分が公民館、水色の部分が児童センター、赤い部分が共用部となっております。

施設のコンセプトといたしましては、東西の玄関から交流スペースであるロビーに入って、ここで多世代交流を行う。さらに児童センターが独立した区画として、1 階の南側にまとめてございます。また、これまで下増田公民館ホールが小さかったので、バレーボールができる大きなホールと立派な舞台を設けてございます。ロビー自体は約 150 平米ぐらいの大きさでございました。

右側が二階の平面図となっております。二階には展望テラスということで、大きなテラスを用意してございます。また、ロビーの吹き抜けに沿って周りから右側から順にいきますと、災害時の倉庫、さらに小会議室、調理室、和室、そして大会議室というような形で、会議室を配置しているところでございます。

続いて 5 ページをご覧ください。塔屋階、屋上の図面でございます。こちらには機械室等ございますが、屋上テラスとして避難スペースの方も用意しております。先ほどの展望テラスと屋上テラス、こちらの方合わせますと、2 階部分全部で 590 人が避難できるようなスペースを確保しているところでございます。どうしても水害の時、3 メートルの浸水、あるいは津波と想定されますので、2 階以上の避難スペースになるということでございます。

以上が簡単な図面の説明でございました。

続いて最初の資料にお戻りください。1 ページ、2 番からでございます。

この施設を作るにあたり、住民の皆さんが 4 回話し合いを行いました。その 4 回の話し合いの中で、施設のコンセプトを作っております。

「安全安心、全世代ふれあひあふれる交流の場」ということで、多世代交流できるようなということが、住民の皆さんの一番の要望でございました。

現在実施が決定している新しい施設の利活用として、3 番でございますが、まず児童セン

ターの園庭を使いまして、仮称でございますが、のびのびグラウンドゴルフ事業、大人が子供にグラウンドゴルフを教えたいと思っているところでございます。

また、公民館のホールで、これも仮称でございますが、すこやかバランスポール事業ということで、大人が子供にバランスポールを教え、体幹を鍛えるような事業を考えているところでございます。また共有ロビーでは③になりますが、わくわく遊び塾ということで、児童センターの方にございますボードゲームやカードゲーム、さらに地域の方が昔遊びを教えるような交流、こういったことができるのではないかと考えております。これは実施が決定しているものでございますが、まずは週1回程度から始めて参りたいと思っているところでございます。

また現在検討する中の施設の利用については4番をご覧ください。下でございますが、まず共有ロビーのところでは、ものづくりや作品展示、ペーパークラフトですとか、あるいは粘土とかいろんなものづくりができるのではないかと考えております。

さらにでき上がった作品をロビーの方に展示するというのも考えられます。このロビーの方でございますが、6ページご覧ください。6ページにロビーのイメージとして鮮明なものをつけております。A3の最後のページでございます。

このロビーの中で交流を図って参りますが、左側の方、こちらにテーブルのところに展示板がございます。全部で8枚展示板がございますが、こちらの方はマグネット式でポスター等を掲示することができ、なおかつ下の方には、深さ20センチではありますがこの台の上に物を展示することができます。さらにマグネット板のところには、何と云うのでしょうか、レールをつけまして、そこにフォトフレーム等を展示できるような設備でございますので、ここでものづくりを行って、さらに各々児童センターなり公民館なりの成果物を展示するということが、予定されているところでございます。

次のページ裏面をご覧ください。2ページでございます。

こちらの方のロビー面の右からご覧いただきますと、3段の段がございます。ここの段の上で、コンサート、あるいは演劇等ができるんじゃないかと考えております。学習発表の場にもなります。こちらの方は手すりがあり、この3段目のところがあるような形になっております。

3段目の幅が1.8メートル。さらに階段の幅が1.8メートルで、赤い服を着ている女の子が座っているところが60センチございますので、大きさとしては2.4メートルかける1.8メートルというような小さな舞台となります。こちらの方で、発表、あるいは歌とか、そういったことが楽しめるのではないかと云うような大きさでございます。

また図書コーナーということで、こちらの方、階段のところにも本棚が三つございます。ここの陰にも。さらに階段の下にも四つの本棚がございます。各々3段ということで幅が約1メートルということから、1メートルの3段ということで約1,000冊の本が収納できるような形となります。また階段本棚にも、こういった四角の本棚が15ぐらいございまして、ここで30冊ぐらいずつの本を収容することができます。そうしますと蔵書は1,500冊ぐらい。この階段の下には児童書等を置きたいと思っているところでございます。ですからここで読み聞かせ等ができるのではないかと考えているところでございます。

また、ロビーに併設する形で、ミニキッチン、約 10 平米のキッチンがついてございます。こちらは 4 ページのところの図面になるのですが、児童センター側にミニキッチンがございます。ですからここで湯を沸かしながら、特にロビー南側でございますが、お茶を出したり、あるいはお話し合いをしたりということができるなというところがございます。

当然愛島公民館もそうなのですが、保護者の待合なんかにもよく使われるのではないかと考えております。保護者同士の交流も図られると考えております。

さらに、4 ページ右側の方の展望テラス、あるいは屋上のテラスの活用としまして、例えば子供食堂で作ったお弁当、調理室で作ったお弁当をテラス、あるいは屋上で食べたり、そういったことができるのではないかと考えております。調理室は愛島公民館の調理室とほぼ同じぐらい、調理台が 5 台ということで、増田も 5 台ですが、大きさが増田よりは一回り小さい大きさになっております。こちらの方の調理室も活用が期待されているものでございます。また、若いお母さんたちが軽食やお茶とかを提供するような地域の会なども、ゆくゆくはやってみたいと考えております。

さらに、地域主催のビアガーデン。地元の店とコラボして、地域のコミュニケーションを図るような機会にもなり得るのかなと考えているところでございます。

⑧は星の観察会。こちらの方テラスの上から、大人が子供に天体を教えたり、というような活用が考えられます。ちょっと私も昨日現場を見て参りましたが、増田川近くで大分暗いので、街路灯が一番明るいぐらいでしたので、星空の観察には支障がないかなということを確認したところでございます。

広場では、産直やフリーマーケット、児童センター、園庭展望テラス、屋上テラスでキャンプ等もできるのではないかと考えているところでございます。

以上でございます。

山田市長

はい。ありがとうございます。また非常に夢のあるということを検討いただいて、いい交流拠点になるのかなというふうに感じています。

今説明がありましたけれども、その説明に対してのご意見、ご感想があればお願いしたいと思います。今日教育委員会の教育会議となっておりますので公民館の話題を中心に議論をお願いできればなとは思いますが。いかがでしょうか。地元の洞口議員。

洞口教育委員

大変素晴らしい公民館ができるのを楽しみにしております。地域の方々とより一層ですね、交流の場が開けるんじゃないかなと考えております。また社会教育関係の生涯学習としても、より一緒に今まで以上に活発な活動が見られるかなと考えております。どうしても今の公民館は人口に対して、かなり厳しい状況です。なかなか予約もとれない状況になっております。そういうことで、地域全体に期待されているかなと考えております。これを機会に、名取市には大学もございます。高校もございますのでね、たくさんの学生の方々にもお力をいただ

きましてですね、地域の方にいろんなことを自分たちの方が、大人になって教える立場になるので、なんていうか予行練習のようなものを公民館でできればなと思っております。また、先ほど星の観察も例として挙げていましたけど、昔下増田小学校では、星の観察会がありました。そういうのが、昔やっていたことをたまたま星の観察会となったんでしょうけども、いい機会かなと思っております。前に戻すという意味でよかったかと思えます。

昨日来ていただいてどうもありがとうございました。

それからもう一つ、去年か一昨年か、全国の方で保育所の事故があったんですね。ここで児童館がかなり大きくなって、先生も多分多くはなると思うんですけども、それで目が届かないイメージですね。やっぱり不審者が入ってきた場合、この絵を見る限りは、ずいぶんガードされているように思いますが、やはり普通の入口から、何気なしに入ってきたときに、その対策としてシミュレーションっていうか、それを先生方と公民館職員も含め、地域の交番もありますので、今度は交番が少し多分遠くなりますので、そういうことでやはりそういう対策は、やっていかなくちやいけないかなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

山田市長

はい、ありがとうございます。1点目はまさに生涯学習の拠点ですので、地域の方のいろんな知見をですね、子供たち含めていろんな方に学んでいただける場所になればいいかなと思います。

あと児童センターについては不審者対策具体的なシミュレーションも必要ではないかということでしたがこれについて今考えていることはありますか。

郷内係長

こども支援課の郷内です。まず、不審者対策というところでは、現在防犯カメラの設置です。今、5台程度を予定しております。東西の入口に1台ずつ。また、広場ですね。パーゴラの部分の広場の部分に2ヶ所。あとは園庭側に2台です。あと新しい建物だからということではなく、現在も児童センターの全施設、不審者に対するマニュアルを備えて、非常事態の時にはこうしていこう、と、館長会議で確認をしています。

新しい施設でもなお、新しい施設なりの対応を進めていきたいなと考えております。

山田市長

はい。洞口委員よろしいでしょうか。

洞口教育委員

はい。よろしく申し上げます。

山田市長

特に全世代で交流できる場っていうことで開放的なつくりになっている部分があるので、

防犯カメラとかは抑止力だと思うんですね。マニュアルもその通りなんだけどやっぱり実践をして、それこそ何かどっかの保育所でやってみたいにさすまたで訓練するとか、何かそういう実践的なことも。開かれた場所にする以上は、やっぱり一応ね、押さえとしてやっとなきゃいけないかなという気はしています。

はい。その他何かございますでしょうか。長澤委員

長澤教育委員

初めに、エレベーターっていうのはこれ、屋上までもう繋がっているんですか。

佐藤生涯学習課長補佐

エレベーターは2階まででございます。

長澤教育委員

では避難っていう時にちょっと車椅子とかの方は。

佐藤生涯学習課長補佐

すいません。2階までです。

山田市長

学校の避難も全部基本、避難するときはエレベーター使わないのではないのですか。

長澤教育委員

場合によります。ただ、常時何か、例えばビアガーデンとかやるときにもね、車椅子の方とかいらっしやる時に、屋上でやるようなものは。

山田市長

ちょっと今からエレベーターをつけることは難しいので何か考えていかなければいけないでしょうね。

長澤教育委員

本当にすてきなコンセプトですね。結局人との交流を生むためには、やっぱりいろんな場所って施設ですよ。結局はハードが素晴らしいハードができれば人がやっぱり集まってくるといことで、この地域住民と考えられたこのコンセプトっていうのが本当素晴らしいなという感想です。

山田市長

ありがとうございます。他、よろしいでしょうか。他に何かありますか。浅野委員。

浅野教育委員

そうですね。世代交流っていうことをコンセプトにしているというのはやっぱり今大事な部分になってきていると思います。もともと、下増田公民館さんだと、地域活動してくださっている方も結構いらっしゃるんじゃないかというところなので、こうやって皆さんの話し合いの中で様々な活動をしたいという希望が出ていることがすごくうれしく思っています。今までだと、やっぱり建物が古くて、狭くて、ということもあり、「公民館ってどこにあるの」と、移り住んできた方たちは思っていたかもしれないのですが、小学校に隣接して新しい公民館ができるっていうことで、知らない人はないのかな、というぐらいのインパクトはあると思います。公民館は気軽に足を運べる場所っていうことで、認知させていかないといけないけれども、子育て世代というか、若い人たちは仕事をしていて、基本的には公民館によっぽどのことがない限り足を運ぶことがないので、こういう形で皆さんにお知らせをして、認知してもらって、気軽に利用できるんだよ、ということが言えるのがいいな、というふうに思っています。学校に隣接した公民館というのは、日常的に利用できる施設とっておりますので、期待しております。

山田市長

はい。ありがとうございます。多世代の交流、特に若い人に足を、公民館に日頃から足運んでもらうようなそういう場所になるかなと思います。まさにいいことだなと思います。では、荒井委員何か。

荒井職務代行委員

はい。大変期待はして、楽しみだなと思っているんですけど、まず、細かい話なんですけど、子供たちが児童館の方に行く時にグラウンドからくると思うんで、結構どろどろの状態が入ってくるのかな、という気がして、本棚がここにある。しかも階段のところ、どうなっちゃうのかな、という、細かい心配をしていました。あとさっきの話じゃないですけど、Wi-Fi環境が入ったらすごくうれしいなと思ったりしたのですが。

山田市長

Wi-Fi 入れますよね。

佐藤生涯学習課長補佐

はい。大丈夫です。

荒井職務代行委員

ありがとうございます。

もう一つは園庭ですね。ここは悩ましいかなと思います。つまり、いろんなものが、今のところにもありますけど、ブランコがあったり、子供には楽しいんだけど、それこそグラウンドゴルフとかできなくなっちゃうのかなあとと思ったら、精選しなきゃいけないのかと。あん

まりごたごたがあると、これはこれでなんか厄介だなと。悩ましいところだなと思ったんで、園庭に置くものなどのイメージみたいなのもあったら教えてほしいです。

山田市長

はい。ありがとうございます。今もう2点目に入ってるんですけど、住民に親しまれるための施設にしていくために、より有効に使ってもらえるような形もしくはそれに対する課題みたいなことの話になると思うんですが、園庭の遊具の配置についてはどう考えているのか。要は地域に利用してもらおうことも想定した配置になっているかどうかという。

郷内係長

遊具の方ですが、今現在も設置されている中で特に人気の高いものを新施設の遊具として選定いただいております。新たな設置というところでは樹木となります。どんぐりの木を設置して欲しいんだ、と、子供たちや先生方からもそういったご希望がいただいております。

遊具の配置については、園庭を囲うように設置を予定しておりますので、中央部分については広く、また、畑なども作りたいという要望も出ておりましたので、地域の方と一緒に活用していきたいということで考えておりました。

山田市長

よろしいでしょうか。

雨の日の対策という話、今もあったのですけれど、私の方からも例の共有スペースですね、今もお話しました共有スペースで、やっぱりいろんなことができるようなふうにしたいということで、ここをぜひ、しっかり有効活用できるようにお互い考えていただきたいなと思っています。

一方で、このロビーのイメージ図を見ると、女の子らしき人が、靴を履いたりしているので、踊り場のところで読み聞かせをするときに、さっき言ったように雨の日、泥んこの靴で入ってきてここ土足で上がっていく。このロビーははたして、踊り場のところで、読み聞かせができるような衛生環境になるのだろうか、というような心配もあります。まして本がここに置いてあるので。ただやっぱり公民館利用者のことを考えると当然土足で上がれるような形の方がいいと思っていますので、その辺の共有スペース、ロビーのところを有効に使う意味でこの踊り場の、何かコンサートみたいなこともありましたけど、ここをどう土足の件とどう両立させていくかっていうのは今のところどう考えているんですか。

佐藤生涯学習課長補佐

はい。今後いろいろ検討していかないといけないとは思っておりますが、例えば手すりのところ、手すり同士間にホールパーテーションというのでしょうか。リボンで通れないようにして、下にこう、例えば敷物などを置いて、土足厳禁にする方法も一つかなとは思っているところです。

山田市長

3段のところですね。なるほど。

あとベランダとか屋上を使うときに、何だろう、その使い方によるんですけどね。例えばさっきの、子供食堂や地域カフェみたいなものをやりたいってときに当然その椅子とかテーブルみたいなものが必要なのではないか。それとも直に座るのであれば、人工芝じゃないけど、何か必要かなって思うのです。そういうやりたいこととそれに付随して必要になってくる、機能というか、備品というか、おそらく作る段階では出てこないもの、必要になってくる備品みたいなことも、ぜひいろいろと考えといていただきたいなと思います。

洞口委員どうぞ。

洞口教育委員

今、テレビなんかでも、駅においてあるピアノってというのが、皆さん興味あるようなのですが、ロビーにはピアノは置かないのでしょうか。皆さんは、素晴らしい腕を持った方も結構地域にいるんです。ロビーでそういう演奏を聴いているのもいいのかなって思います。

ピアノは予定として、どこの部屋に置くのでしょうか。

佐藤生涯学習課長補佐

今検討中ですが、ホールに置くかロビーに置くかの二択しかありません。

本の演台の方に置くとか、あるいはロビーなのかそういったところは今後内部で協議して参りたいと思っております。

山田市長

はい。ここどうなんですかね。2台あればいいのですが。

瀧澤教育長

児童センターに1台と公民館に1台あるようです。

郷内係長

すいません。児童センター側にはアップライトピアノ1台と電子ピアノが1台あるんですけども、こちらの子育て支援室に置いて、お遊戯等で使うということになっております。

山田市長

今あるものを児童センターと公民館の全体の配置の中で、今ご提案あったロビーのピアノについてもちょっと、できるかどうかも含めてご検討いただければなと思います。

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

教育長お願いします。

瀧澤教育長

名取としても児童センターと公民館の合築というのは初めてなので、私も非常に楽しみにしています。公民館の課題の一つの若い世代の利活用が少ないということが挙げられていますけれども、子供たちが過ごす児童センターと併設することで、若い世代も、自然に公民館に来るんじゃないかなというふうな期待もあります。ちょっとこれとは話がそれるかもしれませんが、例えば閑上小中学校で1年生から9年生の異学年交流というのを大事にしているんですけど、自然に、お互いの姿が見える、すれ違うだけでもそういう時間と場所を共有するっていうだけでも、かなり大きな交流になるんじゃないかと。あと、不二が丘小学校と名取支援学校の名取が丘校も、不二が丘小の廊下を支援学校の子供が通るだけで交流になる。そういう時間と場所を共有するっていうだけでかなり私は効果があると思うんですね。ただそれだけだとそれだけになるので、大事なのはこういう仕掛けをどういうふうに作っていくかっていうことで、うまくはまると、起爆剤になるんじゃないかなという気がします。ただそれぞれ一応違う施設なので、実際に運用が始まったらお互いの情報交換、意思疎通、それが非常に大事になってくるんじゃないかなと思うんですね。教育委員会とこども支援課もそうですし、公民館と児童センター、これからできれば、もう考えているかもしれませんが定期的な情報交換打ち合わせを行うとか、そういったことをやっていくことも必要なのかなというふうに思います。

山田市長

はい。そうですね。ぜひ情報交換を密にさせていただいて、よりよい形でオープンできるようにお願いしたいなと思います。

今大体取りまとめのようなことをお話いただきましたので以上よろしいでしょうかね。

それでは事務局におかれましては本日の協議会をしていただきたいと思います

以上で本日の議題についての会議は終了といたします。

次に次第4 その他ですが、事務局何かありますでしょうか。

下山次長兼教育総務課長

特にございません。

山田市長

無いようでありますので以上で終了いたします。

ありがとうございました。

10 終了時刻

午前 11 時 40 分